

北海道北西部の海岸から 20km ほど沖合の海上に位置する天売島は世界でも有数な海鳥の貴重な繁殖地で、繁殖シーズンになると 8 種類もの海鳥が繁殖のために飛来してきます。

その中でも環境省レッドデータブックで絶滅危惧 I A 類に選定されているウミスズメは、天売島が国内唯一の繁殖地と言われています。

しかし天売島で繁殖する海鳥の多くは、環境の変化や人為的な影響などにより生息数が減少しており、ウミスズメについても生息数の減少が危惧されています。一方で、ウミスズメは岩の隙間で営巣することが多く、日中は島から離れた沖合の海上で活動し、月明かりのない真っ暗な夜間に営巣場所に戻ってくるため生態や個体数はほとんど明らかとなっていません。

生息状況を把握し保護対策を講じるためには、継続的に調査を実施する必要がありますが、ウミスズメに関しては調査を行う人材が十分にいないことや調査体制が整っていないということが問題となっていました。そのため 2018 年に前田一步園財団の助成を受け、人材の育成と調査体制の確立のため、友の会メンバーから参加者を募り、研修会および調査実習を実施しました。また地元住民などを対象にした講演会も実施しました。

過去にウミスズメ調査の経験のある専門家（サロベツ・エコ・ネットワーク所属：長谷部真氏）を外部講師として招き、2018 年 6 月上旬に実際に天売島に渡り、今後のウミスズメ調査の担い手候補者を対象にウミスズメの生態や調査方法を学ぶための研修会や講演会、海上でのスポットライトセンサスを実施し調査実習を行いました。講演会では多くの地元住民に参加していただきました。また、研修会と調査実習では 5 名の会員に参加していただきました。夜間の調査実習は風があり寒いためしっかりと防寒対策をして、海鳥繁殖地から 300m と 600m の沖合に設定した航路に沿って船をゆっくり走らせながら、スポットライトを照らして海鳥を識別しウミスズメをカウントしました。調査の終わり頃には波と霧が少し出てきたため調査の難しさも実感しました。

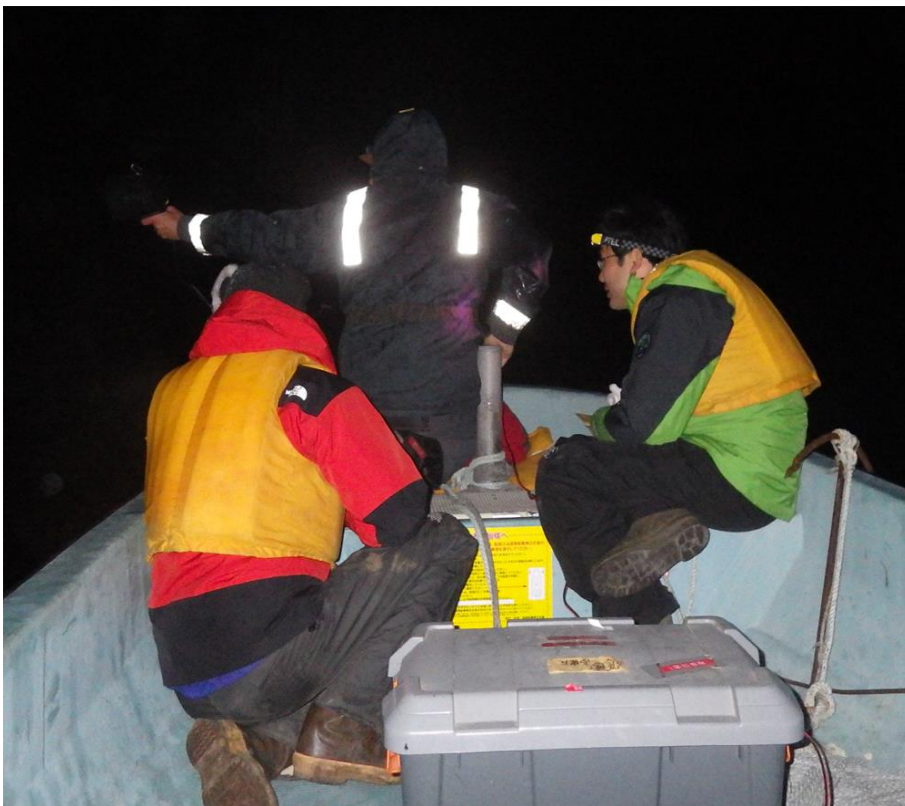
調査は悪天候のため 2 日間のうち 1 日はやむをえず中止になりましたが、今後の調査体制を確立し人材育成するという目標はかなり達成することができたように思います。今後も継続的に調査を行い、保護活動を行っていきたいと思います。

また 2019 年 2 月には調査方法のマニュアルとウミスズメについて紹介したリーフレットを作成しました。リーフレットは北海道海鳥センターで配布しており、今後もウミスズメの保全に向けた普及啓発を行っていく予定です。

このたびは、一般財団法人前田一步園財団のご支援により、充実した活動を実施することができました。温かいご支援とご協力に深く感謝申し上げます。



研修会の様子



調査実習の様子



講演会の様子



作成したリーフレット